

## はじめに

「あなたのブログを拝見しました。本を出版しませんか？」

GalaxyBooksの川西さんより、このようなご提案をいただきました。それはまだ残暑の厳しい2023年9月のことでした。

私が本を出す？ 何かの間違いではないでしょうか？ 本を書く人、本を出す人は、著名人や先生と呼ばれる方々や、学歴も経歴も立派な方々であって、私のような進学も就職も婚活も連敗続きの凡人には、一生縁のない世界だと思っていました。

あ、失礼しました。私はイラストレーターを名乗っています。ネット上ではヘボニカという名前で「筆先日記」というブログを更新しています。

今でこそなんとかイラストを描くことは続けていますが、学生時代はいじめられっ子で、しかも勉強は大嫌い！ わざわざお金を払ってまで、勉強に励む進学なんて道もまったく身が入らず、かといって就職も前向きになれず、就職氷河期も手伝って、なんとか決まった会社でもパワハラを受けること

が多く、転職続きでした。

そんな劣等感満載の私に、出版のお話をいただきました。はたして、私は本当に本を出したいのだろうか？ 悩んだ末に改めて自分のブログを読み返してみました。自分の本当の気持ちを確かめたかったのかもしれない。

ブログは2006年から始まり、今に至ります。最初から読んでみようと、楽しかったこと、つまらなかったこと、そのときそのときに私自身が思ったこと、そこには忘れていたさまざまな出来事が書かれています。

自分なりに、見て聞いて感じていたことがあったこと、そんな私を温かく見守っていた方々がいたこと、そこにはけっして不幸ではなく、ささやかながらも幸せに満ちていた日常がありました。

代わり映えのないと思っていた日々も、自分なりの視点があったんだなあと、ちよつとしたことで不安になったり、悩んだり、そんな私でも、独自の世界を必死でブログに描いていたことが、どこことなく生きづらさを抱えていた必死の抵抗だったのかもしれない。

いろいろなことに連敗続きだと思っていたけれど、そんななかでいろいろなことをがんばっていた

のかもしれませんが。少しでも不器用だったかもしれませんが、むしろ楽しかったのかもしれませんが。

よい機会なので、私のこれまでの経験をもっといろいろな人に知ってもらおう！ これらのプチ不思議な日常体験を解放していこう！ と考えるようになりました。

というわけで、この本は、私という取り扱い説明書でもあり、生きづらさの処方箋でもあります。日々の生活を、少しでも軽くして生きていけるんじゃないか？ という試行錯誤の末、自分自身の経験をもとに書きました。こんな考えの人もいるんだな〜と、クスツと笑っていただければ幸いです。